

生活クラブ生協 東京

法政大学人間環境学部 1年尾崎 沙也花
渡邊 真歩

生活クラブ生協のイメージ

- ・ どのようなこだわりがあるのか気になる
(食の安全への取り組み、福祉や環境への取り組みなど)
- ・ 組合員同士の関わりが深そう
- ・ 消費材にはどのような種類があり、どのような工夫があるのか知りたい
- ・ 企業と協同組合の違いは何だろう

キャリアチャレンジ日程

- 2月5日 生活クラブ東京の活動理解（生活クラブ館）
- 2月21日 組合員宅への配達（練馬・板橋センター）
- 2月26日 デポーにて共同購入事業の体験（八王子・石神井）
- 3月4日 福祉事業の体験（社会福祉法人悠遊）
- 3月8日 農作業現場見学（NPOたがやす体験農園）
- 3月14日 自主監査見学・食と農の政策委員会
- 3月19日 最終講義・振り返り（生活クラブ館）

土屋理事長の講義をうけて

- ・ **生活クラブ東京は5つの法人と52まちから形成されている**
⇒ 各地域を主体的に知っているのは地域の人たちなので小さい単位で活動している
- ・ **2012年にあった国際協同組合年**
⇒ 海外では認知度が高いが日本では低く、協同組合の定着が他国より弱い
- ・ **遺伝子組み換えでない食べ物へのこだわり**
⇒ コーンスターチや家畜のえさはほとんどが遺伝子組み換えであり、そうでないものは珍しい

センターにおける配達体験

<個別配達>

- ・小さい子供がいる家庭が多い
- ・家庭環境を把握している
- ・マンションが多く、各家庭によって配達方法が異なる

<班配達>

- ・昔からの組合員が多い
- ・組合員同士の輪ができている
- ・一軒家が多かった
- ・班の中で配達の家を決めている。

配送体験を通して

- * 地域ごとで組合員のターゲットが異なる
- * 組合員の食への興味・関心の強さを感じた
- * 配達を地域事業としてワーカーズに委託
→ 働き場の場も提供できている
- * 消費材の温度管理の細やかさがすごい

デポーについて

<活動内容>

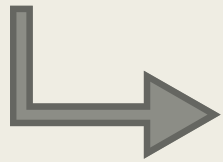
消費材品出し、袋詰め、デポー運営会議参加

<分かったこと>

- ・ 配達と違い消費材を手にとって原材料を確認できるメリット
⇒消費材に対しての信頼があるため値段が高くても需要がある
- ・ デポーのイベント企画が多い(週ごと)
- ・ 消費材以外の通常のスーパーとの違い
- ・ 組合員とワーカーズとのコミュニケーション

生活クラブ福祉事業について

- 社会福祉法人悠遊に行って・・・
- 「防災訓練」「グループホーム訪問」を通して分かったこと
- ＊地域の人たちとの交流・関係づくりの重要性



高齢者や子供も安心して生活できる
持続可能な社会へつながる



農作業現場見学

＜NPO法人たがやす体験農園と生産者の農園を見学して＞

- ・ 無農薬の野菜を作るために伝統的な自然農法を行っている
- ・ 生ごみリサイクル運動
- ・ 生活クラブに出荷しているという誇り
- ・ 生産者の後継者不足



都市農業について

<メリット>

- ・地場野菜を地域の人に届けられる
- ⇒生産者と消費者の距離が近い
- ・都会で農業体験ができる
- ⇒援農ボランティアで農家と市民を繋ぐ

子供も親も
土に触れたことがない人が増えている

- 農業に関心を持つ人が増える

<問題>

- ・農地減少、後継者不足
- ・近隣住民との協力が必要



自主監査・食と農の政策委員会

- ・生活クラブの基準に満たしているか細かくチェック
- ⇒消費材への信頼につながる
- ・組合員主体の自主監査と政策委員会



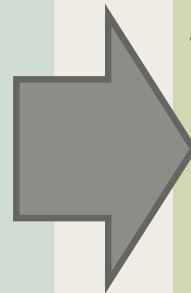
『観客からプレイヤーへ』 組合員の主体性が大事
一から消費材を作り価格交渉まで行うことで消費材への愛着がわく

キャリアチャレンジを通して 生活クラブとは

- ・ 九割以上のオリジナル商品
- ・ 1つの消費材に1つのメーカー

⇒ **一社主義**

- ・ ワーカーズ存在
- ⇒ 生活感、居心地を生む
- ・ 消費材の品質の高さ



・ 組合員で作り上げた消費材やお店だからこそ、信頼や愛着が生まれる

・ 自発的、主体的に取り組むことにより、生活が豊かになった

キャリアチャレンジを通して 生活クラブ東京の課題と可能性

◆都心部でも生活クラブを利用可能に

- ・東京は都心部に大学や若者が集中している
- 大学生などは普段コンビニばかり利用している
- ・ファミリー層だけでなく単身者も多い
 - ・単身者や大学生は帰宅時間が遅くデポなど利用が難しい
- 若者がもっと生活クラブを利用しやすい環境・サービスを作ることが大事



若者の食や農業への関心・意識が高まり

活動や理念が受け継がれていく

<私たちが考えるサービス>

- ・住宅地だけでなくオフィス街にもデポーを設ける
- ・法政大学だけでなく、小中高生、大学生への講義を行う
- ・子供・学生の農業体験活動の推進
- ・若者が多い場所で消費材を用いたカフェなどをはじめ

◆生活クラブのインパクトをもっと社会に広げる

- ・組合員の事業を立ち上げる主体性
 - ⇒もっと地域に還元し、消費材を食べてもらえる場を増やす
- ・サービスをまねる他の企業や協同組合が出てくれば、より持続可能な社会の実現が近づく
- ・マーケットではなく生産者や消費者が価格決定できるような社会づくり

ご清聴ありがとうございました